

2026 年 6 月 25 日

2026 年度 当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

株式会社シャルレ

当社は、「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会が適切に機能しているか検証し、その結果を踏まえて問題点（課題点）の改善等、必要な措置を講じていくという継続的なプロセスにより、取締役会のより一層の機能強化を図ることを目的として、取締役会の実効性に関する評価・分析を実施しましたので、その概要を報告いたします。

1. 2026 年度の分析・評価のプロセス

- (1) 2026 年 3 月にすべての取締役（8 名）に対してアンケートを実施
- (2) 上記(1)のアンケート内容に関して、全取締役の間にて、当社取締役会に対する問題点（課題点）を、さらに深堀するための意見交換
- (3) 上記(2)の意見交換を踏まえ、2026 年 6 月開催の取締役会において、すべての取締役の間で当社取締役会の実効性評価に関する評価結果を審議し、2025 年度の評価結果を確定

※当社では、一定の客観性が担保され则认为、アンケートに関しては、自己評価方式を継続しております。

（アンケート項目）

2026 年度のアンケートの項目は、以下のとおりです。各設問に 4 段階で評価する方式とし、それぞれ項目に関して自由記述欄を設けています。

1. 前年度の課題改善状況、2. 取締役会の構成、3. 取締役会の運営、4. 意思決定のなされ方、5. 取締役会への情報提供、6. コーポレート・ガバナンス体制と運営、7. 取締役へのサポート体制、8. ガバナンス向上委員会の報告書における指摘事項 等

1. 評価の方法

当社のすべての取締役に対し、取締役会の実効性に関して、段階評価およびコメントを記載する方式のアンケートを配付し、記名方式によりすべての取締役から回答を得ました。

これを集計した上で、アンケートへの回答内容をもとに取締役の間において、意見交換を行い、課題を抽出し、今後の取組み等について、建設的な討議を行いました。

2. 評価結果の概要

上記による評価の結果、取締役会の運営、意思決定のなされ方、取締役会への情報提供、取締役へのサポート体制の面などにおいては、当社の取締役会は概ね適切に機能しており、取締役会の実効性が確保されていることを確認しました。

前年度に確認された課題については、下記のとおり、その改善が図られています。また、取締役会の実効性をさらに高めていくために、下記のとおり、継続して取り組むべき課題が確認されました。

(1) 前年度の課題改善状況および継続課題

①中期経営計画における議論の充実

中期経営計画の実行に伴い、関係各部門との建設的な議論を深めることで、推進力を高めて取り組むことができている。今年度は、中期経営計画の社員一人ひとりの理解を徹底し、会社の一体感を更に醸成させ、中期経営計画の進捗について、適切なタイミングで報告し、課題及び対応策の検討に対する議論を充実させることを継続課題として取り組む。

②後継者育成計画

代表取締役社長をはじめとする取締役の後継者育成計画の策定は完了している。今年度は、後継者育成計画の実行フェーズへの移行を重要なガバナンス課題として位置づけ、取締役会として積極的に関与し、後継者となる人材を計画的、継続的に育成、確保していくことを継続課題として取り組む。

③サステナビリティを巡る議論

サステナビリティを巡る課題に関して、シャルレグループとしてのサステナビリティの取り組み全体像を策定し、中期経営計画と連動して、E S G（環境・社会・ガバナンス）投資方針を定め、マテリアリティを特定し、K P Iを設定している。また、そのK P Iの進捗を半期に1回報告し取締役会で確認をしている。今年度は、K P Iの進捗確認の中で、K P I達成に向けた課題や対策に対する議論を更に深めていくことを継続課題として取り組む。

3. 今後の対応

当社取締役会は、取締役の間において認識された課題について、今後も継続して実効性の向上を図るために必要な取り組みを実施し、さらなる改善に努めてまいります。

なお、取締役会の実効性評価につきましては、今後においても定期的実施することを予定しております。

以 上